

平成27年11月19日

市長記者会見資料

平成27年度かわさきマイスター認定者発表について

「かわさきマイスター」については、今年度、25名の応募があり、かわさきマイスター選考委員会での審議の結果、5名を新たに認定します。

「かわさきマイスター」は、極めて優れた技術・技能で本市産業の発展や市民の生活の向上に御尽力いただいていると共に、後継者や若手の指導にも熱心な現役の職人に市内最高峰の匠として贈る称号で、平成9年度から、これまでに63職種81名の方々を認定しています。

* マイスターとは、ドイツ語で「名人」「親方」を意味します。

1 平成27年度かわさきマイスター認定者

- (1) 飯沼 勇 氏 (板金・パイプ曲げ)
- (2) 伊藤 日出世 氏 (難削材精密加工)
- (3) 齋藤 正剛 氏 (寿司職人)
- (4) 島田 昌順 氏 (電気めっき技能士)
- (5) 田中 實 氏 (静電気応用技術)

※今年度の方々を加えると65職種86名の方々が認定者となります。

2 配付資料

- (1) 平成27年度かわさきマイスター認定者 資料1
- (2) 平成27年度かわさきマイスター認定者技能紹介 資料2

【担当】 川崎市経済労働局労働雇用部技能奨励担当 西留・鈴木

電 話 044-200-2242

FAX 044-200-3598

E-mail 28roudou@city.kawasaki.jp

平成 27 年度かわさきマイスター認定者

(敬称略・五十音順)

氏名	年齢	職種	従事年数	居住地	勤務先・役職・住所	推薦人
飯沼 勇	74	板金・ パイプ曲げ	44	宮前区平	有限会社 神奈川厚板 代表取締役 (宮前区平)	株式会社 近藤工芸 代表取締役 近藤真一
伊藤 日出世	66	難削材 精密加工	50	横浜市港南区 大久保	株式会社ヨコトク 常務 (川崎区塩浜)	株式会社 ヨコトク 代表取締役 伊奈久美子
齋藤 正剛	57	寿司職人	36	幸区古市場	有限会社 寿司せん 板長 (幸区古市場)	川崎市寿司商協同組合
島田 昌順	69	電気めっき 技能士	41	三浦市 南下浦町	川崎クローム工業 株式会社 技術室長 (川崎区塩浜)	川崎クローム工業 株式会社 代表取締役 瀬戸定亮
田中 實	67	静電気 応用 技術	37	多摩区菅	株式会社 グリーンテクノ 代表取締役 (高津区子母口)	株式会社 リード技研 小川 登 (かわさきマイスター)

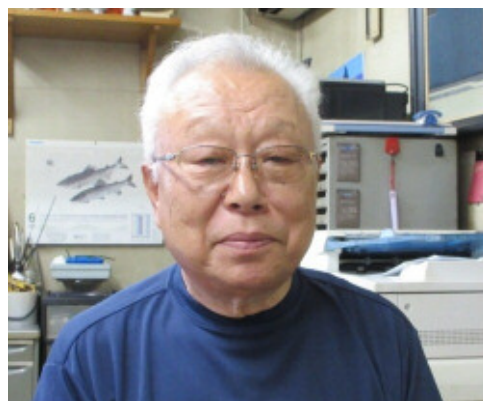
※ かわさきマイスター認定式は平成 27 年 11 月 20 日 (金) に実施します。

- ・時間 14 時 00 分～15 時 30 分
- ・場所 川崎市立労働会館 (サンピアンかわさき) ホール

※ 年齢及び従事年数は認定日 (平成 27 年 11 月 20 日) を基準としています。

1 飯沼 勇 (いぬま いさむ) さん

- (1) 生年月日 昭和16年4月26日
- (2) 職 種 板金・パイプ曲げ
- (3) 従事年数 44年
- (4) 有限会社 神奈川厚板 (宮前区平) 代表取締役
- (5) 在住 宮前区平
- (6) 選考結果 認定



飯沼さんは、御自身で開発した機械で、パイプや形鋼など様々な鋼材を立体的に曲げることができる技術者の方です。

飯沼さんは、昭和40年、金属の溶断を業とする株式会社神奈川鋼(カナガワハガネ)に入社し、3年間金属の溶断業務に携わり、多様な技術・技能を習得しますが、その後、独立し飯沼商店を設立、昭和46年に会社組織(有)神奈川厚板)としました。

転機となったのは、昭和46年にパイプ曲げの機械の注文を受けたことです。初めて作成するパイプ曲げの機械でしたが、御自身の勘と技術で完成させました。ところが、完成直前、注文者からキャンセルされてしまい、やむなく御自身で販売したところ評判が良く、たちまち数台が売れてしまいました。飯沼さんは、この時点で機械の販売を止め、御自身で開発したこの機械「アングルベンダー」を使って、形鋼をきれいに曲げたり、パイプの曲げの仕事を請け負ったりするようになり、その後、3人の息子さんも同社で職人として従事するようになりました。また、息子さんの協力を得ることで「アングルベンダー」の精度も上がり、長いものをしなやかに曲げるなど技術・技能は一段と磨かれていき、会社は曲げ専門として発展しました。

日頃の仕事は賃加工に徹していますが、その技量を見込まれ、新幹線の内装や飛行機の部品、NHKの紅白歌合戦や著名な歌手のコンサートの舞台装置などの特別な注文も受けるようになりました。その技術は、パイプ材のような丸い物や形鋼のようにどうやって曲げるのか想像し難い形の物を、2次元に曲げるだけでなく、3次元形状にも自在に加工してしまうほか、多種少量生産に対応できる技術力を構築しています。ニッチな分野ではありますが、日本の加工業の典型的な業態であり、それを3人もの家族が事業を継承していることは大変希少なことです。

飯沼さんは、「これはできません」とは絶対言わないことが信条で、その仕事への真摯な姿勢に頭が下がります。一方で、飯沼さんは多芸で、釣りの竿の製作も玄人はだしで、これまで300～400本の竿を製作するなど多才な能力をお持ちです。

飯沼さんの技術・技能は3人の息子さんに着実に伝えられ続けています。また、近隣の小学校の工場見学の受入にも熱心な飯沼さんは、こだわりの曲げ加工技術で様々な顧客ニーズに応えながら、家族の絆をベースに技能伝承・後継者育成に尽力しているマイスターです。



2 伊藤 日出世 (いとう ひでよ) さん

- (1) 生年月日 昭和24年6月4日
- (2) 職 種 難削材精密加工
- (3) 従事年数 50年
- (4) 株式会社 ヨコトク (川崎区塩浜) 常務
- (5) 在住 横浜市港南区大久保
- (6) 選考結果 認定



伊藤さんは、加工するのが困難な金属を精密に加工する技術者です。

伊藤さんが、この道に入ったのは50年前で、最初は、大田区の㈱井波器機に就職し、旋盤などの機械を扱い作業をしていましたが、その後身に付けた技術を求められ、現在勤務されている㈱ヨコトクに就かれたのは昭和61年で、ヨコトクの方から「うちに来ないか」と勧められたことがきっかけでした。その後28年、今では経営者から全幅の信頼を受け、リーダーとして若い社員を引っ張る存在になりました。

長年にわたる機械切削技術の経験から、超耐熱合金で切削加工が困難なインコネルの加工や強磁性材であるパーマロイなど、各種の難削材を取り扱うことができるようになりました。

また、横中ぐりフライス盤による大型の金属加工を得意としながら、カールツァイスの三次元測定機により1万分の1mm台の計測も実現できています。

勤務先であるヨコトクが原子力分野から航空機関係に業務を拡大できたのも、伊藤さんの技術力がブランドとなって信頼が高まったことによるものです。

伊藤さんについて特筆すべきは、内閣府最先端研究開発支援プログラムの一環で、日立製作所が開発した世界最高の高精度電子顕微鏡の製作に関わったことです。この顕微鏡は、原子を識別することができ、ご存命中はノーベル賞最有力候補と言われていた外村工学博士を中心としたプロジェクトにより開発が進められ、新しい磁性材料や超電導材料の開発の活用が期待されているものです。

プロジェクトには全国各地から高い技術を認められた技術者が集められ、伊藤さんはその一人で、顕微鏡内部の対象物に電子ビームが真っ直ぐ届くようにするための金属加工などに関わられました。電子顕微鏡は平成27年2月に完成し、日本経済新聞など新聞各社にとりあげられました。

ヨコトクには伊藤さんを含め8人の従業員の方が勤めており、伊藤さんは常務でありながら、現在も現場に立ち御自身の仕事に向かう姿を見せ、高い技術と技能を他の若い社員の方に伝えていきます。少ない社員数ながら高い売り上げを支えているのも伊藤さんが伝える技術力によるものです。日本国内でも傑出した加工技術を持つ伊藤さんは、その高度な技術・技能の伝承と後継者の育成に尽力しているマイスターです。



3 齋藤 正剛（さいとう せいごう）さん

- (1) 生年月日 昭和33年7月21日
- (2) 職 種 寿司職人
- (3) 従事年数 36年
- (4) 有限会社 寿司せん（幸区古市場）板長
- (5) 在住 幸区古市場
- (6) 選考結果 認定



齋藤さんは、鮓調理と創作において優れた技術・技能を有した寿司職人です。

幼少期から幸区で過ごし、小学生の頃から現在も勤めている「寿司せん」に顔を出していました。高校時代にはこのお店でアルバイトを経験します。その後、調理専門学校に進学し、卒業後、一流の鮓調理師を志して「寿司せん」に入社し、田中正行社長や先輩の板前の下で厳しい修行に励みました。以来36年間、絶えず自己研鑽を積み、また、他店の研究を行うなど、鮓を一意専心に極めようとしています。

齋藤さんの持つ技術は幅広く、いずれも素晴らしいもので、全国寿司技術コンテストの江戸前握り鮓部で金賞受賞、さらに全国寿司技術コンテストの創作鮓のランチ部門・ディナー部門の両部門で、最優秀賞を受賞されました。

さらに特筆すべきは、笹の飾り切り、細工寿司の技術の高さです。

笹の飾り切りとは、出刃一本で笹の葉を切り出し、切り絵のように文様を完成させるもので、最近では生の笹の葉を使用する店舗が殆どなくなりましたが、齋藤さんは生の笹にこだわり、技術をしっかりと継承し、受け継いだ基本形を基にして、さらに繊細な図案を組込んで提供し、お客さんを味だけでなく、目でも感動させています。

お店の後輩にはそのような技術だけでなく、寿司屋を営むために必要な、魚の見極め方・煮物・焼き物料理などの技術を指導し、美しい日本食としての寿司の提供に心血を注いでいます。

学校への指導訪問を行い、中学生と高校生の職業体験も積極的に受け入れる齋藤さんは、後継者への技術の伝承と後継者の育成に尽力しているマイスターです。



4 島田 昌順（しまだ まさより）さん

- (1) 生年月日 昭和21年8月17日
- (2) 職 種 電気めっき技能士
- (3) 従事年数 41年
- (4) 川崎クローム工業 株式会社（川崎区塩浜）技術室長
- (5) 在住 三浦市南下浦町上宮田
- (6) 選考結果 認定



島田さんは、硬度の高いクロームめっきを手掛ける川崎クローム工業(株)の技術的リーダーです。電気めっきを始めたのは28歳からと、技術者としてのスタートは決して早くありませんでしたが、それから40年以上、さまざまな試行錯誤の末に培った技術は、大変優れたものです。

例えば、一般的に、製紙業に不可欠な抄紙（紙すき）装置用のドライヤーロールを堅牢にするために、めっきを施しますが、大型のものではロールの直径が4mにも及ぶため、めっき溶液を少量で行えるよう、ロールを回転させる工法を確立させています。

その他、製鉄圧延装置用ギヤーシャフトやシリンダー、樹脂成形装置用スクリーなど、日本の高度技術を支えるため、技能の向上を行ってきました。

また、製造現場でのめっき補修を行えるよう、めっきをかけたい一部だけをめっき液に漬け、めっきをかけられるめっき浴循環装置を開発し、部分補修クロームめっき技術を考案しました。

これにより、小さな補修に、大きなコストをかけることなく、また、効率よく補修作業ができるようになりました。この装置は日本の企業が進出したインドネシアなど、海外でのめっき補修の需要にも対応しています。

さらに、めっき処理後に円筒鏡面研削、バフ研磨などの仕上げ加工を施すことで、めっきをかけたものの精度や堅牢さを確保できますが、その技術を社内に確立することで企業のブランドアップにつなげました。

現在も島田さんは、社内の勉強会で若手に指導を行うほか、海外の作業にも若手社員を同行させて社内での技術の伝承に努めています。さらに社内だけに留まらず、全国的に使われる実務者用テキストの一部を執筆する島田さんは、広く技術・技能者への継承に心を砕くマイスターです。



5 田中 實（たなか みのる）さん

- (1) 生年月日 昭和23年2月16日
- (2) 職 種 静電気応用技術
- (3) 従事年数 37年
- (4) 株式会社 グリーンテクノ（高津区子母口）代表取締役
- (5) 在住 多摩区菅
- (6) 選考結果 認定



田中さんは、高電圧ながら小電流の静電気を用いて様々な製品開発を手掛けている技術者です。

当初、治具設計、機械加工を仕事していましたが、職場の仲間と独立し、現在の株式会社グリーンテクノの前身の会社を設立します。その会社では、主に粉体塗装を行っていましたが、需要の変化から、粉体塗装に用いられる静電気発生装置を活用できないかと考え、現在の静電気応用製品の製造に取り組むようになりました。

一般的に静電気は、邪魔者扱いをされ除電の技術が進んでいますが、田中さんは、逆の発想で、帯電の技術、製品開発の分野に活路を見出します。

岩手大学と共同開発したきこ増産装置や粉体塗装用の機器開発、携帯用の電池式帯電ガン、コロナ放電を利用した帯電の用途開発、その他のアプリケーションなど、高く評価されています。特に最近では、警察関係から犯罪捜査の鑑識に有効な機材として、帯電ガンの購入が増えています。

ニッチな分野ですが、こうした静電気技術を扱っている研究者は少なく、まして製品開発まで推進する企業は希少で、日本中に誇れる技術と思われれます。

現在も田中さんは、商品開発の第一線として活躍する一方で、後継者育成にも熱心であり、開発した製品を利用した小学生等への体験教室などに取り組んでいます。

また、その技術は、川崎市先端科学技術副読本「川崎サイエンスワールド」や小学館「キッズペディア科学館」にも紹介されました。

社内の勉強会に参加し、若手社員の試作品にも暖かく意見を述べる田中さんは、後継者の育成を急務ととらえ、技術の伝承も積極的に取り組んでいるマイスターです。

